

前号まで「まちの出来事」を掲載してきましたが、アンケート結果を受け「明るいニュース」を掲載することを決定しました。記念すべき第1回目として**大竹手すき和紙保存会**の皆さんにお話しをお伺いしました。

第1回 スマイル インタビュー

保存会を結成されたきっかけは？

今から26年前、県の無形文化財でいらつしやった大村調一さんが高齢で引退されるので、当時の有志で約4百年前から始まったとされる技術を保持・継承しようとして結成しました。

大竹手すき和紙の特徴は何ですか？

「全部大竹で」にこだわっています。原料のコウゾとトロアオイは防鹿や三ツ石で栽培し、その後の原料作り、紙漉き作業や紙の乾燥は、防鹿の「手すき和紙の里」で行います。

コウゾの栽培で苦労することは？

6月～9月の暑い時期に出てくる芽を1つ1つ摘む作業は根気のいる作業ですが、手入れをきちんとすることによっていい和紙ができますよ。私は、毎日手入れをしているコウゾの成長がとっても楽しみです。



三ツ石のコウゾ畑ではほえむ
中本伊勢雄会長

保存会をやっている

良かったなと思える時は？

作業風景を見学・体験された方から「やっぱり手すきの和紙は素朴でいいですねエー。」と言われた時です。

あと、コウゾの刈入れ後、みんなで集まって皮をむいたり、ごみを取ったりと作業している時ですね。昔話をしながら大笑いです。



左から
中本会長、福田邦生事務局長、福田豊實副会長

そこには、地域のコミュニティがあるのですね。最後に何か一言お願いします。

保存会が高齢化しています。昔、紙漉きを経験された方、また若い方も早いうちに訪問してみてください。お待ちしています。



紙すき体験中の
「おりづる広島」の
船田さん、松木さん

あとがき

今年には思ったよりも早く夏が来た感じがしますがみなさん体調にはくれぐれもお気を付け下さい。熱中症は家の中に居ても起きるといわれています。こまめな水分補給と室温の管理に心がけましょう。

4月に小方ヶ丘地区に開校した小方学園周辺では児童・生徒の元気な声が飛び交う中、かなりの数の住宅建設が進んでいます。この中には市外から大竹市を選んで住まわれる方も多くいらつしやると伺っています。これまで本市が取り組んできた子育てしやすい環境整備に一定の評価をしていただいたものと思いたいところです。市議会も更なる発展を目指して諸活動に取り組んでまいります。

6月に大竹市ではフェイスブックサイトを立ち上げ、情報発信の強化を行っています。ぜひ一度サイトを覗いていただき、なるほどなと思つたら「いいね」を押してみてください。市議会でも積極的な情報発信を検討したいと考えています。ぜひ皆さんからのご助言をお願いいたします。

2年間、広報広聴特別委員として頑張ってきました。9月から新しいメンバーで取り組むことになりました。どうもありがとうございました。



広報広聴特別委員

委員長
副委員長

乃美晴一 児玉朋也 網谷芳孝 藤井隆馨 北林 年一 山崎 究 日域

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

発行・平成25年8月1日 大竹市議会 広島県大竹市小方二丁目11-1

TEL 082715912183